

小児看護学Ⅰ実習

ねらい：健康な乳幼児の成長発達を理解し、健全な発達に必要な援助を理解する。また、子どもを取り巻く環境について理解し、地域における子育て支援について理解する。

1) 保育所実習目標と到達目標

実習目標	到達目標	学習の視点
(1) 乳幼児の運動、言語、情緒、社会性の発達が理解できる	①乳幼児の身体的成長を踏まえて運動機能の発達を述べることができる ②乳幼児の言語・情緒・社会性の発達を述べることができる ③発達の個人差について受け持ちクラスの状態を述べることができる	①発達課題 ②ボウルビイの愛着理論 ③ピアジェの認知発達理論 ④発達の一般原則と個人差
(2) 乳幼児の保育に必要な援助が理解できる	①受け持ちクラスの基本的生活習慣の自立状況を述べることができる ②乳幼児の発達を促す方法を述べることができる ③保育士の指導のもと、基本的生活習慣の自立に向けての援助に参加できる ④発達にあった遊びに参加できる	①基本的生活習慣の自立度 ②集団の関わり、個人への関わり ③発達段階と保育士の関わり ④園児同士の関わり ⑤社会性の発達と躰 ⑥発達にあった遊具
(3) 保育における安全対策の実践が理解できる	①環境を整える必要性を述べることができる ②乳幼児が使用する施設や遊具に対する事故防止への配慮について述べることができる ③保育士の対応から、乳幼児の事故防止への配慮や指導の状況を述べることができる ④乳幼児の感染予防に配慮した行動をとることができる	①施設の構造 ②設備や遊具の安全性 ③安全管理 ④感染予防
(4) 施設における育児支援の実践について理解できる	①施設の役割を述べることができる ②施設の役割を通して、子ども・子育て支援の必要性を述べることができる	①子どもと家族の概念 ②子どもを取り巻く社会環境 ③子どもを取り巻く法律や施策

2) 保育所 実習展開（例）

日程		実習内容	学習課題
1 日目	4 時間	学内オリエンテーション・京あんしんこども館体験学習	レポート
2 日目	4 時間	施設のオリエンテーション・施設見学（周辺の環境、施設の構造、遊具など）	小児Ⅰ—1
3 日目	8 時間	保育士の子どもへの接し方を見学、基本的生活習慣の観察、保育への参加 カンファレンス（安全）	小児Ⅰ—2・小児Ⅰ—6
4 日目	8 時間	保育士の子どもへの接し方を見学、基本的生活習慣の観察、保育への参加	小児Ⅰ—2・小児Ⅰ—3
5 日目	8 時間	保育士の子どもへの接し方を見学、基本的生活習慣の観察、保育への参加	小児Ⅰ—1・小児Ⅰ—4
6 日目	8 時間	保育士の子どもへの接し方を見学、基本的生活習慣の観察、保育への参加 最終カンファレンス	小児Ⅰ—1・小児Ⅰ—5
7 日目	5 時間	学内実習 学びの共有	

3) 学内実習

実習 1 日目（4 時間）

(1) 学内実習のねらい

保育所実習の実際を視覚教材でイメージ化し、目標到達に向けて必要な自己学習や実習姿勢が事前に準備できることを目標とする。

(2) タイムスケジュール

時間（4.0 時間）	学習内容
9：20～10：20	実習目標・実習展開方法・記録の記載方法について
10：30～12：30	子どもと安全 子育て支援について 講義・体験学習

実習 7 日目（5 時間）

(1) 学内実習のねらい

乳幼児の成長発達を促すために必要な要素について振り返るとともに、子どもの育つ環境を整えていくことの必要性について理解する。また、これから学ぶ「子どもの健康問題と看護」をより深く理解できるように、体験や学びを共有し、価値づけする場とする。

(2) タイムスケジュール

時間（5 時間）	学習内容
11：00～12：30	ラベルワーク テーマ「乳幼児の成長発達を促すには」
13：30～13：45	総括発表会に向けて準備
14：00～15：30	グループ毎に成果発表
15：30～16：00	教員からの講評、小児看護学Ⅰ実習の全体のまとめ

4) 実習上の注意点

(1) 服装について

ポロシャツ・ジャージ・短パン・運動靴・上靴・エプロン・三角巾・帽子・タオル・お弁当・コップ・お箸などが必要である。施設ごとに異なるので事前に確認すること。髪色は規定に基づき、長い場合は束ねてまとめる。ヘアピンは使用しない。名札はフェルト生地などを用いて各自作成する。(施設によっては不要な場合もある。キャラクターの使用を避け、文字は読みやすい平仮名で示す)。

(2) 実習クラスの保育士の指導を受け、園児とのかかわりは積極的に行う。

(3) 学生であっても園児から見れば大人である。「先生」と呼ばれるので、手本となるような行動をとる。特に、あいさつ、言葉遣いに注意する。

(4) 保育中に、現場を離れる場合は、担当保育士に了解を得る。

(5) 園児との関わりの中で起こった出来事(けんかやヒヤリハットなど)については、自分の中だけで対処せず、必ず直ちに指導者に報告、相談を行う。

(6) 実習時間内は、極力メモを避け、質問事項は、1日の終了時に指導者に確認を取り、考察を深める。

(7) 園外保育(遠足など)は、施設と相談の上、参加する。

(8) 実習直前より、自己の健康管理に気を配り、実習期間中は、リーダーがまとめて、健康管理チェック表を毎朝指導者に提出する。体調がすぐれない場合は、すぐに報告し、受診する。

5) 事前学習

(1) 保育所実習

①講義で作成した「各発達段階による成長・発達の特徴」に追加学習を加えて、持参できるように準備する。

②受け持ちクラスの遊びの企画書(実習記録小児1-3)の作成・必要物品の準備をする。

③子育て支援における保育所の役割について調べる。

6) 実習記録

記録用紙	枚数
小児Ⅰ-1 初日実習記録 (施設オリエンテーション・施設見学を受けての学びなど)	1枚
小児Ⅰ-2 実践記録 (日々の実践記録)	4枚
小児Ⅰ-3 遊びの企画 (実施できなかった場合は、園の企画の参加結果を記載)	1枚
小児Ⅰ-4 保育所実習のまとめ (カンファレンス資料)	1枚
小児Ⅰ-5 ラベルワーク (学内カンファレンスの資料)	1枚
安全に対する記録用紙	1枚
小児看護学実習Ⅰ 実習評価表	1枚

7) 提出ファイルについて

学内実習日に、ファイルにインデックスを付け以下の順に綴じる。

*小児Ⅰ－1 から小児Ⅰ－6 まで順番に綴じ、最後に実習1日目のレポート課題・安全に関するカンファレンス記録・事前学習を綴じる。

*実習評価表は、直接担当教員に提出する。

8) 実習評価

(1) 評価対象は、実習時間数の3分の2以上出席した者とする。

(2) 実習評価は、保育所実習終了時に自己評価を記載して各保育所に提出する。

(3) 他者評価は実習指導者と協議の上、教員が行う。

小児看護学Ⅰ実習評価表

看護保健学科

学籍番号		学生氏名		実習施設	保育園	歳児クラス	
実習期間	年	月	日	～	月	日	
実習日				欠席時間数	時間 分		
実習目標	評価項目					自己評価	他者評価
1. 乳幼児の運動、言語、情緒、社会性の発達が理解できる	1) 乳幼児の身体的成長を踏まえて運動機能の発達を述べることができる						
	2) 乳幼児の言語・情緒・社会性の発達を述べることができる						
	3) 発達の個人差について受け持ちクラスの状況を述べることができる						
2. 乳幼児の保育に必要な援助が理解できる	1) 受け持ちクラスの基本的な生活習慣の自立状況を述べることができる						
	2) 乳幼児の発達を促す方法を述べることができる						
	3) 保育士の指導のもと、基本的な生活習慣の自立に向けて援助に参加できる						
	4) 発達にあった遊びに参加できる						
3. 保育における安全対策の実践が理解できる	1) 環境を整える必要性を述べることができる						
	2) 乳幼児が使用する施設や遊具に対する事故防止への配慮について述べるができる						
	3) 保育士の対応から、乳幼児の事故防止への配慮や指導の状況を述べるができる						
	4) 乳幼児の感染予防に配慮した行動をとることができる						
4. 施設における育児支援の実践が理解できる	1) 施設リエンテーションを通して施設の役割を述べるができる						
	2) 施設の役割を通して、親への育児支援の必要性を述べるができる						
実習態度	1) 事前学習ができる						
	2) 指定された期限内に記録ができる						
	3) 疑問点について自己学習ができる						
	4) 助言を受け止め、自己の意見も言える						
	5) グループ内で役割を果たし協調できる						
	6) 時間を守ることができる						
	7) 身だしなみを整えることができる						
	8) 適切な言葉遣いができる						
	9) 施設職員との人間関係の構築に向けて努力できる						
	10) 個人情報保護できる						
総評							
実習指導者			本校担当教員			総合評価	
印			印				

※評価の記載方法：◎優れてできる、○できる、△不十分さを残すことができる、×できない

専門分野Ⅰ4
小児看護学実習

小児ⅠーⅠ 初日実習記録

施設オリエンテーション・施設見学を通して学びたいこと															学生氏名
本日の 実習目標															
本日の 学生の動き	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17					
	予定														
	実施														
実習内容 ・オリエンテーションや見学での要点をまとめる。 ・子どもや保育士の個人が特定されるような情報は記載しないこと。 ・受け持ちクラスだけに限らず、施設全体の取り組みや様子を書き出してみるとよい。 ・小児看護学Ⅰ実習の目標や実習施設の保育理念を参考にまとめてもよい。 ・子育て支援の対象となる地域特性を考えて、施設のある地域周辺を散策した際を知りえたことを書いてもよい。															
本日の実習目標に対する学びと感想 ・本日の実習目標に対する振り返りを主体に記載する。 ・本日の実習で得た価値ある学び、明日からの実践に活用したい目標なども記載するよい。 ・参考として、事前学習や講義で学習したことを踏まえて書くことさらによい。															
【指導者・教員のコメント】															

小児ⅠーⅡ 実践記録

実習 日目 (歳児クラス)															学生氏名
本日の 実習目標	特に意識したい日常生活行動を2つ選び、○をつける										食事・排泄・更衣・遊び・その他 ()				
本日の 学生の 動き	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17					
	予定														
	実施														
【実習の状況と学生の気づき】 ※日常生活行動で○をつけた項目について記録すること。															
場面	子どもの様子					保育士の動き・子どもへの関わり					学生の動き・場面を通しての気づき				
【本日の実習目標に対するふりかえり】															
【指導者・教員のコメント】															

小児Ⅰ－3 遊びの企画

(歳児クラス)

学生氏名

1. 発達のポイント

2. ねらい

3. タイトルと内容

4. 必要物品

5. タイムスケジュール

時間	子どもの動き	学生の動き	留意点

6. 実施・結果と考察

【指導者・教員のコメント】

小児Ⅰ－4 保育所実習のまとめ

(歳児クラス)

学生氏名

1. 乳幼児の運動、言語、情緒、社会性の発達を理解できる

2. 乳幼児の養育に必要な援助が理解できる

3. 保育における安全対策の実践が理解できる

4. 施設における育児支援の実践について理解できる

5. 保育所実習の学びと感想

小児Ⅰ－５ ラベラルワーク【乳幼児の成長発達を促す関わりとして、必要な要素は何か】		学生氏名
子どもの成長発達を促すには（ ）が必要である。 その意味は	子どもの成長発達を促すには（ ）が必要である。 その意味は	
子どもの成長発達を促すには（ ）が必要である。 その意味は	子どもの成長発達を促すには（ ）が必要である。 その意味は	
子どもの成長発達を促すには（ ）が必要である。 その意味は	子どもの成長発達を促すには（ ）が必要である。 その意味は	
子どもの成長発達を促すには（ ）が必要である。 その意味は	子どもの成長発達を促すには（ ）が必要である。 その意味は	
子どもの成長発達を促すには（ ）が必要である。 その意味は	子どもの成長発達を促すには（ ）が必要である。 その意味は	